

# コーヤと町と用心棒

◇町の人たち

- 町の人 1
- 町の人 2
- 町の人 3
- 町の人 4
- 町の人 5
- メグ

◇ヤクザ一家

- 親分
- ヤクザ 1
- ヤクザ 2
- 女親分
- 女ヤクザ 1
- 女ヤクザ 2

◇活動家一家

- リーダー
- 活動家 1
- 活動家 2
- 活動家 3
- ユウ

◇流れの用心棒

- 用心棒 1
- 用心棒 2

◆謎の男たち (大人)

S 1

プロローグ

雑踏。

一人、座り込んでいる女の子の姿がある。

男（大人）が通りがかり、女の子に目をとめる。

…何してるの？

待ってるの。

だれを？

友だち。

男は辺りを見回すが、だれかが来る様子はない。

ここで待ってれば、来てくれるの？

メグは、不思議そうに男を見る。

男は、なぜかその目に、心がざわつくのを感じる。

…わかんない。

……。

みんな、どこに行ったのか、私、知らないんだ。

そうか…。

探してくれる？

え？

私といっしょに。

メグは、男に向かって手を差し出す。

男は、戸惑いながらも、その手を取ろうとする。

ユウ、出てきて男をピコツとなぐる。

あいたっ！…ちよっと、何すんの！

何すんのは、こっちのセリフよ！

え？

みんな！はーじめーるよーっ！

ユウの声を聞いて、みんなが舞台にかけこんでくる。

S 2

ト、田舎の宿場町・広場

ここからが、物語の本番だ。

まずは、ヤクザ一家があらわれまわる中、町の人たちの解説タイム！

町の人 1

むかしむかしの、そのむかし。

町の人 2

とあるところの、とある町では、

町の人3 みんながとても幸せにくらしていました。

町の人4 ところがある時、この町に、

町の人たち こわーいヤクザたちがやってきたのです。

町の人5 そしてその日から、町では戦いが続いているのです。

そこは、町の広場。

今日も今日とて、ヤクザ一家がえらそうにやってきた。

ヤクザ1 ええーい、だまれ、だまれ！だまりおろつー！

ヤクザ2 ここにおわすお方をどなたとどころえる。

女ヤクザ2 おそれおおくもこの町一番のならず者、

女ヤクザ1 ○○（親分の名前）様よ！

町の人たち 出たーっ！

ヤクザ一家 ハーッハッハッハッ！

わかりやすい悪役ノリで、大笑いをするヤクザたちが、親分が手をあげると、ピタッと止まる。

親分 オレ様が、○○様だ。

ヤクザ1・ヤクザ2 いやっ！男前！

親分 この町で一番エライ男だ。

女ヤクザ1・女ヤクザ2 エライ、エライ！

親分 したがって！

ヤクザ一家 お前の物はオレのもの、オレのものはオレのもの。ハーッハッハッハッ！

町の人たち ひどーい！

だがしかし、大もりあがりのヤクザたちの中で、一人だけクールな女の子がいた。

女親分 ○○様。

親分 あ、はい。

女親分 いいから、早いとこやっちゃって。

ヤクザ一家 ははっ！

親分 者ども、かかれ！

ヤクザ一家 おう！

ヤクザたちは、町の人たちにせまっていく…！

町の人たち だーれーかーたーすーけーてー！

活動家一家 待てーっ！

そこに駆けこんできたのは、町を守るために立ち上がった、活動家一家だ！

この展開はもちろん、いつものことだ。

女ヤクザ2 あ、あなたたちは！  
みんな 活動家一家だ！

活動家一家は、ヤクザ一家に向かっていく…かと思いきや、きれいに整列してメガホンでしゃべりだした。

リーダー あーあー、君たち、乱暴は止めたまえ。  
活動家一家 そうよ、そうよ！（そうだ、そうだ！）  
活動家1 私たちは、ボーリヨクに反対します！  
活動家一家 そうよ、そうよ！（そうだ、そうだ！）  
男ヤクザ なに言ってるんだ、てめえ！

（なぐる）

活動家一家 ボーリヨクだ！

女ヤクザ いいのよ、相手はヤクザなんだから。

ユウ テキトーだ！

ヤクザの男の子たちは、女の子たちの後ろに逃げていく。  
どうやら、今日の勝負は活動家一家の方が強そうだ。

活動家2 あーあー、みなさん、今こそカイカクの時です。  
活動家3 あのバカな男子たちの支配から、この町をカイホーするのです！  
リーダー そして！  
活動家一家 平和な町を作ろうではありませんか！

町の人たち、拍手！（なんか、ノリで）

女親分 あなたたち、突然出てきて、何のつもり？  
活動家1 出たわね、ヤクザ一家のかげのドン。  
女ヤクザ1 この町が欲しければ、あたしたちに勝つことね。  
活動家3 あーら、私たちはボーリヨク反対ですから。  
ヤクザ2 さっきなぐったじゃん！

活動家一家は、とつぜん銃をぶっ放す！  
どっから出てきたかは知らない。

女ヤクザ1 ヤクザだからいいの！  
みんな こわい！

しかし、ヤクザ一家も負けてばかりはいられない。

女ヤクザ2 ええーい、あなたたち！  
男ヤクザ はい！

女ヤクザ 1 ヤーっっておしまい！

男ヤクザ はいっ！

さあ、ヤクザ一家と活動家一家のゲキトツだ！  
おたがい思いっきり悪口を言いはじめて…やがて、どっちも息が切れた。

ヤクザ一家・活動家一家 ぜえ…ぜえ…。

町の人たち しょーもなー…。

町の人 5 毎日、毎日、よくあきないわね。

そのとき、どこからともなくカッコイイ曲が流れてきた。

女ヤクザ 1 なに、この曲？

用心棒 1・用心棒 2 待てい！

用心棒 1と用心棒 2が、愛馬にまたがってさっそうと現れた。  
あくまで、さっそうとだ。

みんな なんだ、お前ら！（なによ、あんたたち！）

用心棒 1・用心棒 2 オシたちは流れの用心棒。

用心棒 1 オシの名は○○。

用心棒 2 オシの名は○○。

用心棒 1 そしてオシの愛馬ポチと、

用心棒 2 タマだ。

みんな 馬なのに！？

用心棒 1・用心棒 2 馬だけに！

ガーン…。

町の人 3 なんだか、すごい自信。

用心棒 2 お前たち、オシたちをやとってみねえか？

用心棒 1 腕は今見せる。

えらそうな用心棒にカチンときた、ヤクザ一家と活動家一家は、用心棒たち  
ちにせまっていく…。

男ヤクザ おうおう、なに言ってるんだ、てめえは！

活動家一家 あーあー、フシンシヤは町から出て行きなさい！

親分 やっちまえ！

ヤクザ一家と活動家一家は、用心棒たちに向かっていく…しかし！用心  
棒たちはあっという間にみんなをやっつけた！

町の人たち　すごい！

やられたみんなは、思わずビビって、

ヤクザ1　お、お、親分、どうします？

ヤクザ2　あいつ、強いっす。

親分　むむむ…。△△(女親分の名前)様！

女親分　たしかにいい腕ね。

女ヤクザ1　用心棒って言ったわね。

女ヤクザ2　その腕、いくらで売ってくれるの？

用心棒1　決まってるだろう。

用心棒2　この町に眠る、お宝の半分。

ヤクザ一家・活動家一家　……！

町の人たち　お宝！？

そう、この町には、お宝がかくされていたのだ！  
でも、そのことを町の人たちは知らない。けど…。

女親分　なななななな、なぜその話を…！

リーダー　だだだだだだ、だれですかま！ 部外者にこの話をしたのは！？

町の人4　え、知ってるの？

町の人5　お宝ってなに？

ヤクザ一家・活動家一家　あーっ！

ヤクザ一家と活動家一家は、一瞬、顔を見合わせた。  
ヤバイ！…って感じた。

ヤクザ一家・活動家一家　知らない、知らない、なーんにも知らない。

町の人たち　…うわあ、めっちゃ知ってる。

用心棒2　ま、よく、考えるんだな。

用心棒1　オしたちは、どっちについたっていいんだぜ。

女親分　ええーい、とりあえず行くわよ、あんたたち！

ヤクザ一家　へい！

リーダー　オしたちも緊急会議だ！

活動家一家　はい！

ヤクザ一家・活動家一家　じゃー！

ヤクザ一家と活動家一家は、逃げるように去っていった…。

町の人2　行っちゃった。

町の人3　まさかの新展開だったわね。

町の人たち　うんうん。

で、だ。

町の人たちは、用心棒二人を取り囲んだ。

町の人たち

：で？

用心棒2

なんだ。

町の人4

なんだじゃないわよ。

町の人5

なんなの、その、お宝って。

用心棒1

なんだ。知らないのか。

用心棒2

じゃあ、教えてやろう。

二人の合図で、音楽が流れ出す。

ムードが大事だからね。

用心棒1

むかしむかしの、そのむかし。

用心棒2

だれ一人、知らない者のいない、ならず者の大親分がいた。

用心棒1

めちゃくちゃ強くて、頭も良くて、日本中のお宝を手に入れた。

用心棒2

とにかくすげー人だった。

用心棒1

その人が、死ぬ前に作ったのがこの町さ。

用心棒2

だからこの町には、大親分の残した宝がねむっているとされているのさ。

以上、説明タイム、終わり。

町の人たち

そうだったんだ。

みんな、納得。

町の人5

うーん、まったく知らなかったわね。

町の人2

私たちが、社会が得意じゃないから。

町の人3

そういう問題？

町の人4

で、二人はどっちの味方につく気なの？

用心棒2

オレたちは用心棒だからな。

用心棒1

やとわれれば、どっちにだってつくさ。

町の人1

じゃあ、私たちにも？

町の人たち

え！？

用心棒2

もちろん。お宝さえもらえればな。

町の人たちは、町の人1をすみっこに引っぱっていった。

町の人5

ちょっと、どういうつもり？

町の人1

だって、お宝をヤクザだの、カッドウカだのに渡すくらいなら、私たちが

町の人3

ぶんどった方がいいじゃない。

用心棒1

そりゃそうだけど。

用心棒1

まあ、好きにしてくれ。

用心棒2 返事を待ってるぜ。

二人は、愛馬にさっそうとまたがる。

用心棒1 行くぞ、ポチ！

ポチ ワン！

用心棒2 行くぞ、タマ！

タマ にゃー。

さっそうと、あくまでもさっそうと去っていく用心棒たちであった。

町の人3 あれってホントに…

みんな 馬？

折からの風。

その風に乗って、バサバサとチラシが飛んできた。

メグ なにこれ？

みんなはチラシを拾い上げると、それを読んでみた。

（ヘンな男たちがあらわれて、チラシの文を読んでくれる。こいつらは、このチラシを書いた連中だ）

男1 緊急集会！

男2 町のお宝はだれのもの？

男3 お宝を、みんなの手に取り戻そう！

男1 本日夜、稲荷神社のお堂にて。

男2 みんなの参加を待っています！

すると、男たちはどこへともなく去っていく。

町の人たち おおーっ！

町の人1 なんて都合のいいタイミングなの？

町の人2 これは行くしかないわね。

メグ え、でもなんか、あやしくない？これ、大丈夫なのかなあ…。

町の人3 バカね、あやしくたっていいのよ。

町の人4 ひよっとしたら、お宝のありかもわかるかもしれないし。

町の人5 そしたら、私たちが先にゲットできるかも！

町の人たち うおおーっ！

町の人1 さっそく行きましょ！

町の人たち おー！

そうしてみんなは、元気に神社に向かっていくのだった。

町の人たち おったから！おったから！  
メグ ちよ、ちよっと待ってよー！

メグは、とまどいながらも、みんなの後を追っていく…。

### S 3

#### ヤクザ一家のお屋敷

場所は変わって、ヤクザ一家が住んでいるお屋敷。  
とてもりっぱなお屋敷だ。

もちろん、これは町のみんなからぶんどったものだ。  
そこに、イライラした様子でみんなが入ってくる。

親分

ちつくしよー！なんだあいつらー！

ヤクザ1

なんでお宝のことを知ってるんだ！

ヤクザ2

親分、どうしましよー？

親分

そんなの決まってるだろうー！

女ヤクザ2

今、この町を支配しているのが私たちである以上！

女ヤクザ1

トーゼン、大親分のお宝は、今の親分が引き継ぐべきです！

拍手！

ヤクザ2

でもどうするの？あのめっちゃ強い用心棒。

ヤクザ1

お宝の半分だろ？ヤダよ。

女ヤクザ1

でもあのカツドーカたちがやとったらどうするの？

女ヤクザ2

お宝全部、取られちゃうよ。

みんな

うーん…。

みんなは頭をひねるが、もともと考えるのが得意なタイプじゃない。

ヤクザ1

だいたいさ、あいつらのちよっと頭いいびってるところがキライなんだよな。

女ヤクザ1

そうよ！あいつらささいなかったら、とっくにこの町は私たちのものなのよ！

女ヤクザ2

宝探しもすぐできるのよー！

みんな

そうだ、そうだ！

その時、ずっと考え込んでいた、女親分の手が、スッと上がった。

女親分

はい。

みんな

あねさん！

女親分

私、思いついた。

みんな

きたーっ！

親分

あねさんのワルだくみ！

親分は女親分にゴツンとなぐられる。

女親分 だれがワルだくみよ！

親分 ……すいません。

女親分 用心棒をやとしましょう。

みんな え！？

ヤクザ1 お宝半分、あげちゃうの！？

女親分 バカね。うまいこと用心棒をやとって、うまいこと活動家一家をやっつけ

てもらって、そしたらつまいこと用心棒を町から追っ払うのよ。そしたら

宝は私たちのものよ！

みんな おおー！

女ヤクザ2 なんか穴だらけな計画な気もするけど、カンペキね。

みんな うんうん。

女親分 それじゃみんな、うまいことやるわよ！

みんな おー！

ヤクザの男の子たちは、ウキウキしながら去っていく。

みんな おったから！ おったから！

いっしょに行こうとした女の子たちを、女親分は引き止めて、

女親分 ちょっと待って。

女ヤクザ2 なに？

女親分 もう一つ、私に計画があるの。たのまれてくれない？

女ヤクザ1・女ヤクザ2 計画？

## S 4 活動家一家のアジト

一方、こちらは活動家一家がいつも計画を練ってるアジト。

ここにも、あわてた様子でみんながもどってきた。

さて、諸君。緊急事態だ。

キンキューよ、キンキューよ、ちょーキンキューよ！

これは、我々の計画をだいなしにしかねない、大問題である。

だい、だい、だい、だい、だーい問題なのよ！

○○(活動家1の名前)ちゃん、おちついて。

はい、先生。

はい、どうぞ。

活動家3 えーっと、つまり、なにが問題なんでしょう？

リーダー

活動家3

活動家2

活動家1

リーダー

活動家1

リーダー

活動家3

ガクッ。



男1 緊急集会！

男2 町のお宝はだれのもの？

男3 お宝を、みんなの手に取り戻そう！

男たち 以下略！

活動家一家 おおーっ！

男たちは、やっぱりスーツといなくなる。

活動家2 オしたち以外にも、町のために戦ってる人がいる！

活動家1 私たちも、負けていられません！ 先生！

リーダー そうだな…それでは、しかたない。

リーダーは、どこからともなく出したスイッチを押す。

(何度も言うけど、どこから出てきたのかは、気にしなくていい)すると、町に警報がなりひびきはじめた！

リーダー ただいまより、この町はヒジョージタイに入る！

みんな イジョージタイ!?

こわい！

リーダー そう！ ヤクザたちの手にお宝を渡すわけにはいかない。用心棒をやとって、ヤツらをテッテーテキにやっつける！

みんな 先生！

(泣きながら)そしてこれを…この町の…最後の戦いにしよう…。

みんな (やっぱり泣きながら)うっっ…！

リーダー 私たちが町の人たちのたてとなって、戦うんだ！

みんな わかりました！

リーダー、スイッチを切る。

リーダー では、集会に、ゴー！

みんな はーい！ おったからー！ おったからー！

みんなは、元気に神社に向かっていく。

ユウは、一人、それを見送って、ため息をつく。

ユウ はーあ…。

## S5 町の広場・夜

その日の夜のことだ。

ユウは一人、町の広場にすわっていた。神社の集会には行かなかったんだ。

そこに、同じく集会に行かなかった、メグがやってくる。

メグ どうしたの？

ユウ ああ…。なんか、ついていけなくなってます。

メグ 私も。

ユウ あんたも？

メグ うん。みんな、お宝に夢中なんだもん。

ユウは一つ、ため息をつく。

そのユウに、メグはずっと思っていたことを、思いきって聞いてみた。

メグ 私たちって、ノリ、悪いのかな。

ユウ え？

メグ 私、ヘンなのかな？

ユウ よくわかんないけど…。

メグ ユウは楽しい？ カツドローカのみんなといっしょにいて。

ユウ 最初はね、おもしろいかなって思ってたんだけど、なんか最近、やっぱりちがったかなあって思ってます。でも他にやりたいところがあるわけじゃないし、友だちもいるし、だからなんとなく？このままでもいいかって…。あたしもそう。

メグ 今度は、二人でため息をついた。

ユウ お宝が見つかったら、この町、どうなっちゃうんだろう。

メグ 今までは、全然、ちがっちゃうんだろうね。

ユウは、あんまりそのことを、考えたくないようだった。その時だった。

用心棒1・用心棒2（声） ハイヨー！

メグ・ユウ …あ、この声は！

愛馬にまたがった用心棒1と用心棒2が、さっそうとやってきた。

用心棒1 やあ、お嬢さんたち。

用心棒2 こんなところで何をしているんだい？

ユウ あんたたちこそ、何してんのよ。

メグ みんなに仕事、たのまれたんじゃないの？

用心棒2 おうよ！ オレが、活動家一家。

用心棒1 オレは、ヤクザ一家。

用心棒2 両方からのまれちゃったから、一人ずつってわけだ。

そう言うと、二人はうれしそうにハイタッチした。

それにビックリしたのは、メグとユウだ。

ユウ 一人ずつって、バラバラに戦ってこと？  
メグ それでいいの？ 仲間同士で戦うなんて。  
用心棒1 オしたちは用心棒だからな。こうなることは…。  
用心棒1・用心棒2 覚悟の上さ！ っつっ…。

二人は、今度は男泣きに泣き出した。  
それを見て、二人は不思議でしよがなかった。

ユウ それなのに、どうして用心棒なんてやってるの？  
用心棒2 そんなの決まってるだろ！

用心棒1・用心棒2 かっこいいからさ！

メグ・ユウ かっこいい？

用心棒1 流れ流れて、こっちの町。仕事が終われば、あっちの町。

用心棒2 オしたちみたいな流れもんは、勝とうが負けようが、関係ねえ。

用心棒1 それでもオしたちは！

用心棒1・用心棒2 用心棒が好きなのさ！

メグ 好きだから、やるの？ それだけ？

用心棒1 男が生きるのに、それ以上の理由があるのかい？

用心棒2 オしたちは、オしたちの生きたいように生きるんだ。

メグとユウは、それに答えることができなかった。

用心棒2 おっと、いけねえ。仕事が待ってる。じゃあな、○○○(用心棒1の名前)。

用心棒1 じゃあな、△△(用心棒2の名前)。

用心棒1・用心棒2 決闘で会おう！

メグ ねえ、ちょっと待ってよ！

しかし用心棒たちは、愛馬にまたがって、

用心棒1 行くぞ、ポチ！

ポチ ワン！

用心棒2 行くぞ、タマ！

タマ ニャー！

そうして、またさっそうと去っていった。

それを見送ってから、メグはポツリとつぶやいた。

メグ ……生きたいように生きる、か。

ユウは、なにかを思いついたように顔を上げて、

ユウ ……ね、わたしたちも、ためしてみない？  
メグ なにを？

ユウ お宝。私たちがもらっちゃおうよ。

メグ えー!?

ユウ そのあと、どうするかなんて、どうでもいいからさ。ちょっとだけ、やってみようよ。私たちがやりたいように。…どう??

メグ でも、わたし…。  
ユウ ねえ、お願い。

メグはちょっと考えて、やがてうなずいた。

メグ …うん、わかった。

そのとき、ヘンな男を先頭に、活動家一家と町の人たちがやってきた。どうやら、稻荷神社の集会で団結したらしい。

メグ …なに、あいつ??

メグは、先頭の男に気がついた。  
今まで、見たことのない男だった。

活動家一家 正義はわれらにあり!!

みんな おーっ!  
町の人たち 今日こそ、町をみんなの手に取り戻そう!  
みんな おーっ!

なんだかみんな、いつもとちょっとだけ雰囲気がちがうのを二人は感じていた。

メグ なにこれ。

ユウ みんな、どうしちゃったの?  
男1 そうだ。これは正義の戦いだということをお忘れな。

男1、リーダーに小さなスイッチを渡す。

活動家一家 はっ!

リーダー ヤクザ一家をやっつけろ!  
みんな おーっ!

さらに、ヤクザ一家もやってきた。

ヤクザ一家 やれるもんなら、やってみろ!

女親分 あんたたちに、お宝は渡さないわよ。

町の人1 あーら、私たちに勝てるつもりでいるのかしら??

みんな ぬぬぬ…先生!

みんなに呼ばれて、用心棒1と用心棒2がやってきた。  
もちろん、今回は二人いっしょにじゃない。  
二人はもう、敵同士なんだ。

用心棒1・用心棒2 さあ、始めようか。  
みんな 決闘のはじまりだ！

音楽

## S 6 町の外に広がる荒野

決闘の舞台は、もちろん荒野だ。

活動家一家とヤクザ一家は、それぞれ準備にとりかかっている。

その奥には、馬たちに世話をされながら、用心棒たちがドーンと座っている。

そう、用心棒は、いつだって最後に戦うものなんだ。

町の人たちは、その両者の間でワクワクしながら実況をはじめめる。

町の人1 さあ、はじまりました！ 町のお宝をめぐる、ちよーソーゼツバトル！ 名づけて！

町の人たち 全国ちよーすげーお宝をゲットしてちよーすげー大金持ちになろう選手権！

他のみんな なげーっ！！

町の人1 実況はわたし、ごくごく普通の町の人代表・○○○(町の人1の名前)と、

町の人2 私はお宝とか、ぜーんぜん興味ないから！ の、△△(町の人2の名前)

がお送りいたします！

ヤクザ一家 ウソつけ！

町の人2 なによ！

町の人3 そしてゲストは私たち、お宝はいらないけど光るものが大好き、○○○(同

じく、名前)！

町の人4 ○○○(同じく、名前)！

町の人5 ○○○(同じく、名前)！

町の人3・町の人4・町の人5 の、三人です！

各チーム、それぞれに反応。

(拍手したり、ブーイングしたり、好きにやっっている)

町の人1 さて、今回の大会の賞品ですが…。

町の人2 ごらんください！

町の人1&町の人2が指さす先には、でっかい蔵(倉庫みたいなやつね)がある。

町の人4 あれは、ぜったい開かないと言われた蔵！  
町の人5 まさか、あの中に…！

町の人1・町の人2 そう、お宝があるのです！

みんな うおおーっ！

町の人1 そして優勝したチームには…こちら！

例のヘンな男が、一本の力ギをみんなに見せる。

町の人2 蔵の力ギが贈られます！

みんな うおおおーっ！

お宝のありがたが分かって、みんなのテンションはもうMAXだ。

町の人1 さあ、それでは出場選手をご紹介いたしましょう。

町の人2 私たちはいつでもみんなの味方。お宝を町に取り戻す、○○○(リーダーの名前) 一家です！

活動家一家 いえーい！

町の人たち (拍手)

ヤクザ一家 (ブーイング)

町の人1 その活動家一家に対するのは…ヤクザたちです！

ヤクザ一家、ガクッ。

活動家一家・町の人たち (ブーイング)

女ヤクザ2 ちよっと！

ヤクザ1 紹介がザツだぞ！

町の人4 うるさいわねえ。

町の人3 紹介してもらってるだけ、ありがたいと思いなさいよ！

町の人2 そして両チームには、強力な用心棒、○○○(用心棒1の名前)と△△△(用心棒2の名前)の姿があります。

町の人5 愛馬ポチとタマを引き連れて、ドーンと出番を待っています。  
町の人4 どんな戦いを見せてくれるのか、じつに楽しみです。

そこに、メグとユウがかけこんできました！

メグ・ユウ ちよーっと待った！

活動家3 ヌウちゃん！？

メグ この戦い…

メグ・ユウ 私たちも参加するわ！

みんな えーっ！

活動家3 ヌウちゃんがおかしくなっちゃった！

さすがのみんなも、びっくりだった。

ヤクザ一家 おい、なんのつもりだ！  
活動家一家 裏切るつもりか！？

ユウ 裏切るだなんて、そんな…その通りに決まってるんじゃない！

みんな ええええーっ！

親分 さてはお前ら、お宝をひとりじめする気だな！

メグ・ユウ フッフッフ…その通りよ！

活動家3 きゃーっ！（シヨックでぶっ倒れる）

活動家1 ○○（活動家3の名前）ちゃん、しっかりして！

活動家一家は、あわてて活動家3を助けおこす。

活動家2 なんてヤツらだ！

ヤクザ1 そうだ！ひとりじめなんて、

ヤクザ一家 サイテーだ！

他のみんな …あんたたちには言われたくない。

ヤクザ一家 なに！

ワーワーギャーギャーさわぎたてるみんな。

町の人1 これはまさかの展開です。

町の人2 全国お宝はあたしのもよ！選手権、ここでまさかのメグ&ユウが参戦です！

ヤクザ2 あ、さっきと名前がちがう！

ヤクザ2、町の人1と町の人2にボコボコにされる。  
だからこういうことを、気にしてはいけない。

町の人1 さあ！それでは最初の勝負を始めたいと思います！

町の人2 最初の勝負は…かけっこです！

大歓声！

町の人4 さっそく花形が来ましたね。

町の人5 勝負といえは、やはりかけっこです。

町の人3 さあ、各チームの代表者が出てきました。

ヤクザ2、活動家1、ユウが前に出てくる。

みんな がんばって！（とか）負けるんじゃないわよ！（とか、好きなことをいっ

ぱい言おう）

その大歓声の中、女親分と女ヤクザ1、女ヤクザ2はワルだくみをしているようだ。

女親分 …準備はいい？  
女ヤクザ1 まかせといて。  
女ヤクザ2 バッチリよ。

しかし、そうとは知らずにスタート地点では、3人が一線にならんでいる。

町の人3 それでは位置について…

町の人4 用意…

町の人たち ドン！

活動家1とユウは、いいスタートを切った！

…が、ヤクザ2だけは、なぜか走らずにスタート地点に寝そべっている。

町の人1 さあ、いっせいにスタート…おや？

町の人2 ○○(ヤクザ2の名前)、走りません。○○、走りません。

町の人4 どうしたんでしょうか、のんびりしています。

町の人3 その間に△△(活動家1の名前)とユウ、グングンと差を広げていきます。

そして、女ヤクザ1と女ヤクザ2が、あやしげなスイッチを取り出すと…。

女ヤクザ1・女ヤクザ2 えい。

スイッチを押したとたん、活動家1とユウの足元に、ロープが出てきて2人は見事にすっころぶ！

町の人3 あーっ！二人がコケました！

だけど、トラップはそれだけじゃない。

女ヤクザ1・女ヤクザ2 えい。

町の人4 おーっと、さらに落とし穴だ！

女ヤクザ1・女ヤクザ2 えい。

町の人5 さらに、どこからともなく水が流れてきた！

ボロボロになった2人は、その場にぶったおれてしまった…。  
それを見たヤクザ2は、やおら起き上がってタラタラ走り始める。

町の人1 そして、ぶったおれた二人の横を走って、○○、よゆうのゴール！

ヤクザ一家 よっしゃー！

活動家一家・メグ ぶるいー！

女親分 なに言ってるのよ、勝てばいいのよ、勝てば。

ヤクザ一家 ハーッハッハッハッ！

活動家一家とメグは、それぞれ選手を助けに行く。

活動家2

くっそー、あいつら、きったねえな。

メグ

大丈夫、ユウちゃん？

ユウ

(ズタボロ) 平気平気、ゼンゼンなんにも大したことないわ。

そして勝負は、非情にも続いていく。

町の人2

さあ、続きましての第2戦！

町の人3

次の競技は、ユイシヨタダシイこの種目です。

町の人4

かつては神にささげる儀式であり、

町の人5

オリンピックの種目にもなりました、そう！

町の人たち

綱引きです！

拍手！

メグ・ユウ

えー！

町の人1

まずは、ヤクザ一家と活動家一家の対決からはじめたいと思います！

両チーム、前に出てくる。

町の人3

では、ルールを説明します！

町の人4

綱から手がはなれるか、審判が「勝負あり」と言ったら勝負ありです。いいですね？

ヤクザ一家・活動家一家

よっしゃー！

町の人5

それでは始めます。用意：スタート！

と、言った瞬間だった。

町の人3・町の人4・町の人5

勝負あり！

ヤクザ一家

えーっ！

活動家一家

よっしゃーっ！

勝ったのは、活動家一家だ。

けどももちろん、ヤクザ一家は納得がいかない。

女ヤクザ1

ちょっと待ちなさいよ！

ヤクザ1

まだ全然引っぱってないじゃん！

活動家1

なに言ってるのよ。

活動家2

まん中の印が、1ミリこっち側に来てただろ。

ヤクザ一家

1ミリ！？

活動家3

だから私たちの勝ちなのよ！

ヤクザ2

そんなのありかよ！

活動家2

審判がそう言ったんだから、いいの！

ヤクザ一家と活動家一家、なんかゴチャゴチャとモメ始める。

ポチ・タマ (笛を鳴らす) ピーピーピー!

ポチとタマ、両チームの間に割って入って、引きはなす。  
みんな、馬の言うことは聞こう。

町の人1 さあ、次いってみましょう!

ヤクザ一家 きったねー!

町の人2 (無視) 次は、活動家一家対メグ&ユウの対戦です。

活動家一家は4人、メグ&ユウは2人。  
どう見たって、活動家一家が有利だ。

町の人3 さあ、これは大変な戦いですね。

町の人4 勝負は見えてますが、いちおうやりましょうかねえ。

町の人5 いいですか? ホントに行きますよ?!

メグ ええ、いいわよ。

ユウ 思いつきりやってちょうだいよ。

町の人5 では、用意…スタート!

と、言った瞬間だった。

メグ・ユウ あー!

活動家一家 え?

思わず、2人が指さした方を見てしまう活動家一家。  
そのすきに、2人は綱を自分たちの方に引っ張りよせた。

活動家一家 あー!

町の人たち メグ&ユウの勝ちです!

活動家1 ちょっと待ちなさいよ!

町の人3・町の人4・町の人5

(活動家一家に) なにやってんのよ、あんたたち!

同じくもめる両チーム&町の人たち。

町の人1 これは大波乱です。

町の人2 ぜったい勝てないと思われていたメグ&ユウが、

町の人1・町の人2 まさかの大勝利です!

ポチ・タマ (笛を鳴らす) ピーピーピー!

ポチとタマ、両者を分ける。

町の人1 ここまでのポイントは、ヤクザ一家が1ポイント。  
町の人2 メグ&ユウが1ポイント。  
町の人1 活動家一家が0ポイントです！  
町の人3 これは追いこまれましたね、われらが活動家一家。  
町の人4 いやよ次が、最後の勝負ですからね。  
町の人5 しかし、まだまだ勝負はわかりません。なぜなら！  
町の人2 最後のゲームの勝者には、100ポイントが入ります！  
活動家一家 いえーい！  
メグ・ユウ・ヤクザ一家 ちょっと待てー！

シーン…。

町の人3 …なによ。  
親分 なんだ、それは。  
町の人5 なにって、そういうルールだもの。  
女ヤクザ1 あんたたち、それ、今作ったでしょ！  
女ヤクザ2 ずるいわよ！  
町の人たち さあ、何のこと？

すつとぼける町の人たち。  
でも、まあ、たぶん…当たってる。

女ヤクザ2 なにがあっても、活動家一家を勝たせるつもりね。  
ヤクザ1 きったねーヤロウだ！  
女親分 …わかったわ。やっぱり、あんたたちとまともに勝負しようとしたのがバカだったわ。  
ヤクザ2 あねさん！  
リーダー そうだな。ということとは…。  
みんな やっぱり…。

みんなは、用心棒の方をふりかえる。

用心棒2 オしたちの出番ということだな。  
みんな 先生！

みんなは後ろに下がって、用心棒たちに場所をあけた。  
用心棒同士の決闘は、いつだってキケンなものなんだ。

メグ ちょっと待ってよ！  
ユウ 私たちはどうなるのよ！

そこに入ろうとしたメグとユウだったが、ポチとタマがその前に立ちはだかった。

ポチ おやめください、お嬢さん方。

みんな え！？

タマ この戦いには、口を挟まねえ方がいい。

みんな ええ！？

ポチ オしたちは、あんたらを危ねえ目に合わせたくねえんです。

みんな しゃべったーっ！

活動家2 馬なのに！

ポチ・タマ 馬だけに！

馬たちに押し切られ、メグとユウは引き下がるしかなかった。  
もう勝負の行方は、用心棒1と用心棒2に託されたのだ…なぜか。

用心棒2 とうとう…この時が来たな。○○(用心棒1の名前)。

用心棒1 そうだな。△△(用心棒2の名前)。

用心棒1・用心棒2 さあ、決着をつけようか。

風の音が聞こえてくる。

町の人1 これはいったい、どんな戦いになるのでしょうか。

町の人2 一瞬たりとも、目が離せません。

場は、ものすごいキンチョー感に包まれている…。

用心棒1 行くぞ。

用心棒2 セーの！

用心棒1・用心棒2 最初はグー！ジャンケンポン！

用心棒1 あっち向いてホイ！

用心棒2、用心棒1の指さした方を向いてしまう。

用心棒1 勝った！

活動家一家・町の人たち ああーっ！

ヤクザ一家 やったー！

敗北し、くずれ落ちる、用心棒2。

ヤクザ一家 勝った、勝った、勝った！バンザーイ！

活動家3 え、なに？これだけ？

活動家1 めちゃくちゃ強いんですよ？

活動家2 なのにこれだけ？

用心棒2 バカヤロウ！これがオしたちの、真剣勝負だ！

活動家一家・町の人たち えー！

ヤクザ一家は、またふんぞり返って、

親分　　そういうことだ！

ヤクザ1　　これからこの町は、オしたち一家のものだ。

ヤクザ2　　逆らうものは出ていけ！

ヤクザ一家　　ハッハッハッハッ！

活動家1　　どうしましょう！ 先生！

リーダー　　こうなったら、やむを得まい…。

リーダーは、勝負の前にヘンな男からもらったスイッチを取り出した。

メグ　　あ、それ…！

リーダー　　みんな、これよりこの町は…。

活動家一家　　ヒジョージタイだ！

メグ　　押しちゃダメ！

活動家一家　　スイッチオン！

はげしい警報がなりひびく。  
すると、あのヘンな男たちが現れ、ヤクザ一家と用心棒たちをとりかこんだ。

## S 7

### 同・荒野

空は、急に暗くなってきた。

まるで、真っ黒な男たちに、世界がおおわれていくかのようだ。

ヤクザ1　　なんだ、こいつら！

ヤクザ2　　こわい！

そう、出てきたヘンな男たちは、いつものあのヘンな感じではない。  
なんか、マジな空気をまとっている。

男1　　情けないな、お前たち。

男2　　ボスはがっかりしておられるぞ。

活動家一家・町の人たち　　もうしわけありません！

活動家一家と町の人たちは、男たちに頭をさげる。  
そう、集会に参加したみんなだ。

女親分　　ちょっと、あんたたち！ なんのつもりよ！

女ヤクザ1　　この勝負、あたしたちが勝ったのよ！

男3　　フン…くだらん勝負に意味などない。

女ヤクザ2　　なによ、それ！

男たちに向かっていくヤクザ一家だったが、男たちにはかなわない。

用心棒1 おい、なにすんだ！

用心棒2 宝をひとりじめする気か！？

男1 宝だと？

男たちは、バカにするように笑い出す。

男1 そんなものが本当にあると思っていたのか。

用心棒1・用心棒2 なに！？

男1 それにしても…まだこんな連中が生き残っていたとはな。

そう言うと、男たちは用心棒たちにおそいかかる。

用心棒たちは男たちと戦うが、さすがの用心棒もかなわなかった。とうとう、二人はとりおさえられてしまう。

みんな ○○(用心棒1の名前)！△△(用心棒2の名前)！

女ヤクザ1 二人をどうするつもり！？

男1 決まってるだろう。我らの意に沿わぬものたちなど必要ない。…消えてもらう。

みんな 消える！？

男2 そうだ。文字通り跡形もなく。この世から。

男3 こいつらがこの町にいたという記憶さえも残らぬように。

男4 それが…。

男4が、言いながら前に出てくる。

でもこの男の言葉だけは、なぜだろう、少しだけ迷っているように聞こえる。

男4 オしたちの仕事なんだ。

メグ ……。

メグだけは、それに気づいたようだった。

男1 見せてやれ。

男1の言葉で、男4は宝のカギを取り出し、蔵を開ける。

ギギギ…と重たい音がひびき、開いた蔵の中には…何もなかった。

活動家1 これって…。

みんな からっぽ！？

活動家2 ぐびぐびぐぶっなってるの！？

活動家3 お宝はぐい行っちゃったの！？

あわてるみんなを、男たちはにらみつける。

男1 我々の目的はなんだ！

活動家一家・町の人たち 町に平和を取り戻すことです！

男1 そうだ。ならば宝など必要ない。ただ、こいつらを排除できればそれでいい。

活動家一家と町の人たちは、ちょっと顔を見合わせた。

男たちの言い方に、ちょっと迷いはじめたようだ。

しかし男たちは、それを許さない。

男1 どうした。警報のスイッチを押したのは、お前たちだろう。

みんな ……。

男1 言うておくが、こいつらに味方するならば、お前たちも同罪だ。

みんな え！？

男2 好きな方を選ぶがいい。この町で平和に暮らすか、

男3 こいつらとともにこの世から消え去るか…。

男1 さあ、ぶつする？

みんな それは…。

みんなは、男たちにとりおさえられた、用心棒1と用心棒2を見て、そして考える。

用心棒1・用心棒2 ……。

でも、選べる道は他にはない。

みんなは、やがてあきらめたように目をそらした。

男1 ……それでいい。連れて行け！

男たちは、用心棒1と用心棒2を連れて行くこととする。

メグ ちょっと待って！

そのとき、男たちの前に進み出てきたのは、メグだった。

メグ こんな……こんなのおかしいよ。

男たち ……。

メグ いくら平和のためって言ったって、逆らう人をつかまえて、いなかったことにして……そんなのぜったいヘンだよ。

男たち ……。

メグ これが……みんなのため？

男たち ……。

メグ これが本当に……私たちのためなの？

男4は、ゆっくりとメグを振り返ると、

男4  
メグ  
…そうだ。  
…。

男4は、かぶっていた帽子を取る。  
それは、このお話の最初に、メグとしゃべっていた男である。

オレたちは、みんなが幸せに生きていける世界を目指して戦っている。

…。  
だからこれは、正しいことなんだ。だれも逆らってはいけないんだ。

…。  
だってもう、この町に宝は残っていないんだから。

もう…？

男4  
メグ  
そうだ。かつて、この町は宝に満ちあふれていた。世界は、光に満ちて  
いたんだ。だが、一歩足を踏み出すごとに、一つ宝は消え、一つ道を選ぶ  
旅に、一つ光が消えていった。そしていつしかこの宝の町は、ただの荒野  
になっていったんだ。

…。

男4  
メグ  
今は分からなくてもそれでいい。何も考えるな。ただ信じてついて来れば  
いい。だってオレたちに逆らうヤツなんか、この世には誰一人いないんだ  
から。

…。

もう、二人のことは忘れることだ。

男4は、用心棒たちを連れて行くこととする。  
が、メグは首を振った。

私はいやだ。

…！

いやだ。

めぐちゃん…。

男4  
メグ  
だって、私、楽しかったから。お宝を取りあって、めぐちゃんにケンカ  
して、とっても楽しかったから。

…。

これってやっぱり…ヘンかな？ 私がヘンなのかな。

…。

男4  
メグ  
みんな勝手なことばかりして、全然まとまってなんかいなかったけど、  
でもすっごく本気で、すっごくバカみたいで…そんなみんなが、私…好  
きだった。大好きだったんだよ。

…。

だから私、二人がいなくなるのは、ぜったいにイヤだ。

男4  
メグ  
お前…！

ユウ、メグをかばうように、男4の前に立ちはだかる。

ユウ　ヘンじゃないよ。だって私もそうだから。

メグ　ユウちゃん。

ユウ　私も、とっても楽しかった。みんなとケンカするのが楽しかった。今まで、そんなこと考えたこともなかったけど(用心棒の二人を見て)二人に出会って、はじめて、そう思えたんだ。それがヘンなら、ヘンでいいよ。

ユウは、みんなをふりかえる。

ユウ　みんなは、そうじゃないの？

みんな

ユウ

だから私も、あんたたちのところには行かない。二人をいなかったことにするなら、私もいっしょにいなくなる。それでいいんでしょう？

男4　なにをバカな…！

メグ　うん…私も。

男4　……！

男4は、何かを言おうとするが、言葉にならない。

男1　なにをしている。さっさとそいつらを連れてこい！

男4　……。

女ヤクザ1　ケンカするのが、楽しい…ね。

ヤクザ1　なに言ってるんだよ、って感じだけど、

女ヤクザ2　でもそれって、

ヤクザ2　どんだけ考えても…。

みんなは、顔を見合わせると、大きくうなずいた。

みんな　すっごい分かる！

メグとユウは、ビックリしてみんなを見回した。

メグ・ユウ　本当！？

もう一度、みんなは大きくうなずいた。

そしてそのとたん、不思議なことに、みんなの体に力がわいてきたんだ。

ヤクザ1　そりゃ、好きもキライもあるけどさ、

活動家1　いろんな人がいて、だからいろんなことがあって、

町の人3　泣いたり笑ったり、

ヤクザ2　おこったり楽しんだり、

活動家2　そうやって毎日がちがう日になっていくんだと思う。

リーダー 同じ気持ちの人となかよくなって、

親分 ちがう気持ちの人から、新しいことを知って、

町の人2 そうやって私たちは、前に進んでいくんだと思うから。

町の人1 だから、したがえって言われても、こう言うよ。

みんな そんなのヤダ！

みんなの言葉に、用心棒1と用心棒2も立ち上がる。

用心棒1・用心棒2 よっしゃあ！そこごとくっちゃー！

みんなは、逆に男たちをとりかこんでいく。

男4 分かっているのか。自由に生きれば、嫌われることもある。みんなが勝手に

ヤクザ2 生きれば、いつケンカになるともしれないんだ。

女親分 うん、まあ、しょうがないんじゃない？

女親分 私の正しいが、みんなの正しいじゃないし、

女ヤクザ1 だれかの正しいを、まちがってるなんて言いたくない。

女ヤクザ2 それでさらわれちゃうなら、しかたがないよ。

みんな だって、もう自分を偽りたくはないから。ありのままの自分を好きでいた

いから。

活動家1 だけど、私、これだけは言えるよ。

活動家3 たとえだれがどんな生き方をしているとしても、私たちは気にしない。

親分 オしたちはもう、笑いあうことができるから。

メグ そうだよ。私たちは、それができるよ。

ユウ あんたたちには、できないの？

男4 俺は…。

男1 ええい、どけ！

迷う男4を押しつけて、男たちはみんなをにらみつける。

男1 なにを言ったところで、オしたちに勝てなければ意味はない！

男2 お前たちは消え去る運命なのだ。

用心棒1 いいだろう！

用心棒2 真剣勝負だ！

男たちと、みんなはググツと構えて…。

みんな 最初はグー！ジャンケンポン！

みんな、バラバラにいろんな手を出す。

…そうしたら、きっとだれかは男たちに勝つよね？

勝った子

あ、勝った。

勝った子  
オレも勝った。

勝った子  
私も。  
勝った子  
私も。(とか、いろいろ好きなこと言っている)

男たちは、大あわてだ。

男たち  
ちよっと待て！

活動家1  
え、なに？

男1  
勝った、ってなんだ。あいこだろ、あいこ！

活動家2  
なに言ってるんだよ。

ヤクザ1  
真剣勝負、って言ったら、普通は一对一の決闘だろ？

みんな  
うんうん。

男2  
そんなにあれこれ出されたら、絶対だれか勝つだろーが！

ヤクザ2  
それがどうした！

みんな  
真剣勝負にいいわけするな！

男たち  
えー！

女親分  
それじゃ、行くわよ！

リーダー  
せーの！

みんな  
あっち向いてホイ！

みんな、協力して全部の方向を指さす。  
ま、当然勝てるよね。

みんな  
勝ったー！

男たち  
ちくしょー！

みんな  
とっとと出てけ！

みんなは、男たちをものすごい勢いでけり出した。

みんな  
ハーツハツハツハツ！

みんなは大笑いして、よろこびあう。

その中で、メグは一人だけ、男4が残っていることに気がつく。

男4  
…ありがとう。

男4は、そうつぶやくと、町を出て行った。

メグと、ユウ、用心棒1、用心棒2が、それを見送った。

## S8

### 町の広場

さっきまでの空気がウソのよつに、空は晴れ渡っている。

用心棒2　これで、この町も静かになったな。

メグ　……。

用心棒1　さて、と。

そう言うと、用心棒1と用心棒2は、また愛馬にまたがった。

ヤクザ2　なんだよ、もう行っちゃうのかよ？

用心棒2　ああ、仕事が終わったからな。

用心棒1　また別の町に行って、別の仕事を見つけたら。

用心棒2　それが、オレたちの生き方だからな。

ユウ　…そうだね。

女ヤクザ1　お宝は、あげられなかったけどね。

用心棒1　なに言ってんだよ。

用心棒2　お宝なら、ちゃんともらったさ。

みんな　え？

二人は、自分の胸を指さして、

用心棒1・用心棒2　ここにな。

みんな　…シブイ。

用心棒1　じゃあ、あばよ！

用心棒2　みんな、元気でな！

ユウ　うん、ありがとう！

みんな　バイバイ！

用心棒たちは、本当にさっそうと去っていく。

女ヤクザ1　さて…。

活動家2　と…。

みんな　いっことは…！

ヤクザ一家と活動家一家は、いつものようににらみあう。

親分　今度こそ、この町はオレたちヤクザ一家のものだ！

ヤクザ一家　いえーい！

リーダー　あーあー、君たち！

活動家3　（メガホンを取って）ランボーはやめなさい！！

活動家1　○○（活動家3の名前）ちゃん！？

活動家3　この町は、住民の手に取り戻されたのです！

ヤクザ1　うるせー！

活動家2　うるせーってなんだよ！

ヤクザ2　うるせーから、うるせーんだよ！

女親分　あんたたち、やっちゃって！

またまた、追っかけあい始めるヤクザ一家と活動家一家。

町の人4 ホント、みんな…。

町の人たち あきないわねー…。

町の人たちは、あきれながらも笑い出す。

町の人5 …ま、しょうがないか。

町の人3 これが、私たちだもんね。

町の人4 それじゃ、私たちも…。

町の人たち やっちやいますか！…どけー！

町の人たちも、追いかけてここに混ざっていく。

リーダー

みんな よーし、今日という今日は、決着だ！  
かかってこーい！

音楽

S9

エピソード

雑踏

男が一人、立ち尽くしている。

男

……。

メグ、男にかけよると、手を差し出す。

男、ゆっくりとその手を取る。

おしまい